

A decorative graphic consisting of several overlapping curved lines in shades of green, yellow, and purple.

大阪大学外国学図書館の 利用教育における教員との連携

平成29年度アジア情報関係機関懇談会
(平成30年3月6日(火) 国立国会図書館関西館)

大阪大学附属図書館学術情報整備室
(前 箕面地区図書館サービス課)
白石 真之

目次



1. はじめに
2. 実施ガイダンス内容
3. 近年の取り組み
4. まとめ

1. はじめに



大阪大学箕面キャンパス（旧 大阪外国語大学（2007年に大阪大学と統合））

- ・ 外国語学部・言語文化研究科・日本語日本文化研究センター
1学部・1研究科・1センター 人数約 学部生2500名*、院生150名、教員150名

*学部1回生は豊中キャンパスで授業を受けるため未カウント

- ・ 25専攻語

中国 朝鮮 モンゴル インドネシア フィリピン タイ ベトナム ビルマ
ヒンディー ウルドゥー アラビア ペルシア トルコ スワヒリ
ロシア ハンガリー デンマーク スウェーデン ドイツ
英語 フランス イタリア スペイン ポルトガル 日本



1. はじめに

大阪大学外国学図書館

- ・蔵書：約51.6万冊
- ・職員：常勤6人 非常勤8人
(うち利用支援担当 常勤3人 非常勤3人)



ラーニングコモンズ「るくす」



閲覧スペース

2. 実施ガイダンス内容



- ・大阪外国語大学時代より
教員の要望に応じてゼミごと（主に3・4回生）にガイダンスを実施

基本構成として下記の2タイプを実施（要望に合わせてカスタマイズ）

- ・論文検索ガイダンス（90分）
目的：雑誌論文の検索方法から入手方法までを知る。
- ・書庫ガイダンス（30-50分程度）
目的：書庫の利用方法、専攻語関連資料の所在を知る。

その他に

留学生や新入学院生向けのガイダンスも要望に応じて実施

（図書館主催ガイダンス、外部講師による各DB講習会は別途実施）

2. 実施ガイダンス内容

2017年度オンデマンド実施ガイダンス

	日付	曜日	種類	時限	言語	参加人数
1	4/7	金	論文	13時-14時	新入学院生	5
2	4/11	火	論文	12時-13時	新入学院生	5
3	4/17	月	論文	2限	ペルシア語	5
4	4/17	月	書庫	16:30-17:10	ペルシャ語	10
5	4/19	水	書庫	3限	ペルシア語	11
6	4/20	木	論文	2限	スペイン語	9
7	4/24	月	書庫	16:20-17:00	中国語	5
8	4/25	火	論文	4限	インドネシア語	11
9	4/26	水	書庫	2限	インドネシア語(2回生)	15
10	4/26	水	論文	3限	ペルシア語	11
11	5/8	月	論文	2限	デンマーク語	5
12	5/10	水	論文	2限	日本語	18
13	5/10	水	論文	3限	フランス語	12
14	5/15	月	論文	4限	朝鮮語(国会)	3
15	5/17	水	書庫	16:20-17:00	英語	10
16	5/22	月	論文	4限	中国語(国会)	22
17	5/23	火	論文	4限	ハンガリー語	11
18	5/23	火	論文	3限	ビルマ語(2回生)	19
19	6/5	月	論文	3限	フランス語	3
20	6/7	水	論文	4限	ビルマ語	10
21	6/9	金	論文	1限	ビルマ語	19
22	6/14	水	論文	4限	中国語(国会)	10
23	7/7	金	論文	2限	ペルシア語(2回生)	21
24	9/21	木	論文	3限	デンマーク語	12
25	9/29	金	論文	16-17時	新入学院生(留学生)	13
26	10/12	木	論文	2限	インドネシア語(2回生)	11
27	12/5	火	論文	3限	留学生(日研生)	48
	(国会)は国会図書館関西館アジア情報室との合同ガイダンス					計334名



論文検索ガイダンス風景

2. 実施ガイダンス内容



2017年度[論文検索ガイダンス]実施内容

計24回開催（11言語+図書館主催×2回）
標準実施時間90分、受講生は3-4回生が主
1人1台PCを使つての実習形式

基本構成

卒論と文献（導入）（5分）

文献入手方法説明・演習（25分）

（文献リストの読み方から学内所在確認、アクセス方法まで）

DB検索方法説明・演習（日本語文献30分、英語・（現地語）文献20分）

2. 実施ガイダンス内容



各専攻、ゼミごとのカスタマイズ

- ・ 演習課題の変更
- ・ 紹介データベースの変更（教員による推薦・指定をいただける場合もあり）
例：CNKI(中国語), RISS(朝鮮語), 国立セーチェー二図書館OPAC等(ハンガリー語)
他にも ライデン大学OPAC等(インドネシア語), JSTOR(ビルマ語) などもあり
- ・ その他教員からの要望
例：論文ガイダンスと書庫ガイダンスを1コマ90分で行ってほしい（スペイン語）
→説明を短縮、演習を館内資料へのアクセスに変更するなどして対応
- ・ 教員からいただいたゼミでの配布資料、ゼミで予定されている課題から
例：ゼミ指定の学術雑誌リストから（インドネシア語）
→指定雑誌掲載論文限定の検索用リンクの作成（ディスカバリーサービスをISSNから絞り込み作成）

2. 実施ガイダンス内容



課題

- ・専攻・ゼミごとに実施・不実施のばらつきがあり（14専攻語では不実施）
 - ・空白の2回生（2回生を対象としたガイダンスが極端に少ない）
 - ・図書館員のマンパワーとの兼ね合いもあり急拡大は難しい
- アプローチできていない対象についてニーズの把握がし難い
（できている対象についても講習の機会は1度だけのことが多い）
- ・図書館員の現状ではほとんどの現地語での検索が困難
 - ・レファレンス対応も減少し、主題知識を得る機会も減少傾向
 - ・（自機関の場合）図書館員は概ね3年程度で異動するため、サービス提供側の人員は常に入れ替わる
- 当館図書館員だけではサービスの向上・継承がし難い

3. 近年の取り組み



まずはできるところから

- 前年度のゼミごとの卒論題目を教務担当部署から入手
それまでは教員の専門分野をもとに資料作成していたが、想定以上にテーマが広いゼミも…
 - ゼミのスケジュールを（いつ、どんな課題を与えるか）教員に確認
- ガイダンス内容のベースアップ
パスファインダー、図書館主催講習会のテーマ・時期選択の一助にも
- 蓄積することで重点的に取り組む課題もより明確に？

3. 近年の取り組み



- 国会図書館関西館アジア情報室と合同ガイダンスの実施（中国語・朝鮮語）

当館のガイダンスと合わせ、アジア情報室より、当館との蔵書構成・提供サービスの違い、リサーチナビなど解説いただく

→講習内容の充実だけでなく図書館の信頼性の向上にも

- 1-4回生各学年毎のゼミガイダンスの試み（ビルマ語 インドネシア語）

教員から各回生毎にゼミでのガイダンス実施の依頼（今年度から）

→教員との接点が増し、授業内容に合わせた講習へ

3. 近年の取り組み



- ・ 教員と共催のイベントを実施

専攻内容に関連した講演会・イベントを図書館内で共催

例 【講演会】芥川龍之介の『芋粥』 vs ハンガリーの作家モーリツ・ジグモンドの『悲劇』

【イベント】デンマークのクリスマス

→教員との接点が増し、図書館員の専攻の理解の一助にも

- ・ 図書館ラーニングサポーター(LS)の活動と利用教育の関連

(当館では授業期にラーニングコモンズにて大学院生のLSが学習支援活動に従事しています)

(今年度従事しているLSの専攻語は日本語,中国語,ビルマ語,ハンガリー語,スワヒリ語,英語)

学習相談対応以外にも各専攻に合わせたパスファインダーの作成、講習会を実施

→LS自身の教育機会の増加、各専攻向けのコンテンツの蓄積

4. まとめ



それぞれの置かれる状況に合わせて
教員・院生・図書館・類縁機関が連携することで

資料の活用・検索・入手のしやすい環境へ

利用教育活動の質の維持・向上へ

接点が増え、利用教育活動にとどまらない活動の発展へ